



たかまる通信

第16号 2011.4.1 討議資料

発行/ 福岡たかまる後援会 TEL0952-20-0111

国内観測史上最大のマグニチュード9.0で、強い揺れや大津波などで甚大な被害が出ています。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された全ての方に心からお見舞い申し上げます。国難に際しては党派を超えて力を合わせる必要があります。救助と復興に国を挙げて取り組まなければなりません。「国にとって真に必要なものは何か」という観点で、予算審議を行う必要性を改めて考えさせられました。



国難には 挙党一致で

国会で平成二十三年度予算案に対して、激しい火花が散っている最中に、東日本巨大地震が起こりました。

農林水産委員会での質問風景

参議院

農林水産委員会委員

佐賀の基幹産業は、農林水産業です。現政権はTPPに安易に加入しようとするなど、一次産業崩壊の危機にあります。また、民主党政権下での農家の戸別所得保障政策は、足腰を強くするものではありません。一次産業従事者が、その所得で生活できるようにすること、後継者が育つようにすることが求められます。佐賀の方々の声を、しっかりと届けていきます。

予算委員会委員

政策を実行しようとするれば、予算措置を伴います。予算委員会がテレビ中継などで取り上げられるのも、すべての省庁にまたがるあらゆる事項を議論できる場だからです。一方で、予算委員会という名でありながら、スキャンダルなどの追求に終始し、本来の予算審議が十分に行われていないとの指摘も頂きます。注目の委員会で、理解を得られる議論を行っていききたいと思います。

政府開発援助等に関する特別委員会理事

国の財政が逼迫し、国民生活にも明るさが戻らない中で、海外支援のためのODA予算をもっと削減すべきだとの声を頂くことがあります。しかし、1997年には1兆1687億円あったODA予算は2011年予算では5727億円と半減しています。それに伴って、国際社会における日本の地位も急速に低下しているのが現状です。日本のODA施策は、相手の立場に立ったメニューを提供すると、その内容は高く評価されています。日本も厳しいですが、比較できないほど厳しい環境下に置かれた方々のために、日本はもっとリーダーシップを発揮すべきだと思います。

自民党

シャドウ・キャビネット厚生労働副大臣

政権奪還後の姿を示すために、自民党はシャドウ・キャビネット(影の内閣)を組んでいます。その厚生労働副大臣という役を頂きました。厚生労働分野は、年金、医療、福祉、子育て支援、雇用・労働問題など、国民生活に直結する関心事が集中しています。少子高齢化に伴って予算は増えていく分野ですが、財源の裏付けのない施策は長続きしません。知恵を絞って、望ましい姿を示していかなければなりません。

政務調査会厚生労働部会長代理

自民党は、政務調査会の各部会で政策の議論を行っています。私は、田村憲久部会長の下で、丸川珠代先生とともに部会長代理を仰せつかっています。自民党の強みは、頻繁に行われるこの部会で平場の議論を積み重ねていくことにあります。地元の声を吸収した議員たちによって、ボトムアップで政策を作っていきます。

政務調査会電源立地及び原子力等調査会事務局次長

佐賀にも、玄海原子力発電所があります。エネルギー政策と、安全確保、地域振興などについて議論します。

組織運動本部団体総局厚生関係団体委員会委員長

自民党と厚生関係団体との窓口である厚生関係団体委員会の責任者です。医療、介護、障がい福祉、保育などの各団体から、現場の声などを承っています。

組織運動本部団体総局農林水産関係団体委員会副委員長

自民党と農林水産関係団体の各種折衝を行います。

組織運動本部青年局次長兼団体部長

全国にある自民党青年組織と連携をとります。その中で、団体部長は農協青年部、商工会青年部、青年会議所などの団体との窓口役となります。

国際局次長

自民党と海外との折衝を行います。総裁と各国大使との意見交換なども行っています。

佐賀県支部連合会会長

自民党佐賀県連の責任者です。自民党の強みは、支部組織や職域組織がしっかりとしていることです。各種地方選挙で同志の必勝を期すとともに、党勢の拡大に努めていきます。

福岡たかまる事務所移転のお知らせ

事務所を移転しました。

八幡神社から西に150メートルほど

入ったところ(旧岩永浩美事務所)です。

お近くにお越しの際は

ぜひお立ち寄り下さい。



佐賀事務所 〒840-0826 佐賀市白山一丁目4-18
TEL0952-20-0111
FAX0952-20-0666

国会事務所 〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館919号室
TEL03-6550-0919
FAX03-6551-0919

参議院議員としての スタートにあたり

昨年の参議院選挙で多くの方々のお支えを頂き、再び国政の場で仕事をさせていただく機会を頂きました。

よく、「衆議院と参議院は違いますか?」と聞かれます。

内閣総理大臣の指名、予算案、条約の承認などについては衆議院の優越が認められていますが、それ以外は衆議院・参議院は、原則として同等の権限をもっています。

一方で、参議院議員の任期は六年と長く、解散されることはないために強い独立性が保たれています。

三十七歳という年齢で、衆議院議員と参議院議員の両方を経験することができたことはとても珍しいことですが、私から見ても両院の雰囲気は違うと感じます。

衆議院議員は常に解散の恐怖にさらされています。「常在戦場」という言葉がありますが、議論を行う上でも目先の結果にこだわるきらいがあります。次の選挙までに目に見える結果を残さなければ、信任は得られないという意識が働くのだと思います。

一方で、参議院は解散もなく、任期も長いために、目先の結果にこだわることなく、長いスパンで物事を見て、考えることができるという良さがあります。

私は現在、自民党影の内閣の厚生労働副大臣という役を頂いています。年金や医療、介護などの社会保障などは、政権が変わる度に制度が変わって、国民は安心できません。長期的な視野で議論を行うことがなじむテーマも多いと感じており、ここに参議院の存在意義があると思います。

これまで「衆議院のカーボン・पी」と揶揄されることもありましたが、昨年夏の参議院選挙でねじれた状況が生まれることによって、その存在に一気に注目が集まっています。

今も随所に見られる政権の暴走については、しっかりと抑制をきかせていかなければなりません。ただ、党利党略で反対ばかりしていると、その存在価値がないというふうに見られてしまいます。

議論をしっかり見極めながら、今、何が求められているのかを踏まえた対応をしていきたいと思っています。



結婚しました

私たち、昨年9月に結婚しました。妻・洋子とは12年前に知り合いました。お互いに街並み散歩や食べることが大好きという趣味も共通し、多くの時間を共有するようになりました。

私は、30歳で衆院選に立候補してから7年間で4回の選挙を経験しました。皆様のお支えにもかかわらず、2回は苦杯をなめました。失意のどん底の中でも、次に向かって前向きに進むことができたのも、洋子の励ましが大きかったと思っています。

洋子も、数年前、大病を患いました。私といることで、少しは気が紛れたのではないのでしょうか。

私から見る洋子は「あっけらかんとしている」し、洋子は私のことを「マイペース」と思っているようです。

これからも、二人で力を合わせて頑張っていきたいと思います。洋子は長野県出身と、地元の者ではありませんが、彼女なりに皆様と交流を深めるべく努力しています。

今後も夫婦共々、ご指導いただきますよう、心よりお願いいたします。



フォトアルバム



ODAに関する特別委員会で青年海外協力隊の研修を視察



小泉進次郎議員と街頭活動



厚生関係団体委員長として各団体と意見交換



滋賀県で行われた「アメニティーフォーラム」で障がい福祉について討論



毎年恒例の佐嘉神社前での新年のあいさつ運動



公募を経て自民党衆議院佐賀一区支部長に岩田和親さんを決定したことを発表



有明海沿岸道路開通式



鳥栖山笠に参加



唐津くんち

東日本巨大地震 がんばろう日本!

募金のお願い「東日本巨大地震救援募金」

集まりました救援募金は、日本赤十字社を通して被災者支援に活用させていただきます。

銀行・支店名:りそな銀行 衆議院支店
支店番号:328
口座番号:(普)0037627
口座名義:東日本巨大地震救援募金